



第1回移動博物館を開催

8月21日(土)~8月31日(火)までの短い期間でしたが、京成臼井駅の臼井情報コーナーで写真パネルと若干の縄文土器を展示して、佐倉市の臼井地区にある吉見台遺跡の紹介をしました。夏休み中とあって、親子連れを含む130名を超す見学者がありました。簡単な展示ですが、多くの人に遺跡が身近にあることを知っていただけたと思います。

第1回史跡めぐりを開催

8月25日(水)、印西市・臼井町の38名の方々と佐倉市内で発掘調査中の遺跡(岩名古墳群・神門房下遺跡C地点)と本部展示室の見学を行いました。当日は曇り空で連日の猛暑とは違ってかわって過ごしやすい一日でした。調査中の遺跡の見学は初めてという方が多く、職員の説明に熱心に耳を傾け、たくさんの質問を投げかけていました。またやってほしいという要望のほか、がんばってくださいとのありがたいお言葉までいただきました。今後も小規模ながら継続して行なっていきますので、ふるって参加してください。次回は来年度に予定しています。親子連れ、小中学生の参加も大歓迎です!

佐倉市神門房下遺跡C地点現地説明会を開催

9月25日(土)、台風の影響が心配される中、気温30の快晴にめぐまれますは安心。中学生を含む100人を超える方々が訪れ、調査担当者も予測しなかった中世の墓地を中心とする遺構群に興味津々の様子でした。では、ここに墓地を構築した人々の住まいはどこにあるのでしょうか?

《ご案内》



本部展示室平成11年度企画展

「陶のうつわ - 印旛の古式須恵器 - 」(地図)

印旛沼周辺の遺跡から出土した5世紀代の須恵器にスポットをあて、豊富な遺物をもとに印旛の地に須恵器がもたらされた時代背景について紹介します。この時期の須恵器を一堂に見ることが出来る絶好の機会です。ぜひ見に来て下さい。

平成12年1月28日(金)まで 9:00~16:30

土日祝祭日、年末年始閉館。入場無料。

なお、来年2月からは、企画展「甲いの考古学~そのころとかたち~(仮題)」を開催する予定です。お楽しみに!

《室内作業》



本部統合

佐倉市鍋木町198-3 ☎043(484)1133

生谷松山遺跡(佐倉市・縄文時代ほか)

成山地区遺跡群権現堂遺跡

(四街道市・古墳・奈良・平安時代・中世)

荻原長原遺跡(印旛村、弥生時代)

成田統合事務所

成田市飯仲字台畑330-1 ☎0476(26)7208

川葉館跡(成田市・古墳・奈良・平安時代、中世)

四街道事務所

四街道市みそら3-44-1 ☎043(432)0336

成山地区遺跡群(四街道市・縄文時代~中世)

弥富事務所

佐倉市岩富町538-1 ☎043(498)2735

菅内并戸作遺跡(佐倉市・縄文時代ほか)



第1回史跡めぐり(上.岩名古墳群、下.神門房下遺跡C地点)



神門房下遺跡C地点現地説明会

《発掘中の遺跡》



佐倉市

内田端山越遺跡(縄文・古墳・奈良・平安時代)

神門房下遺跡C地点(縄文時代・中世)

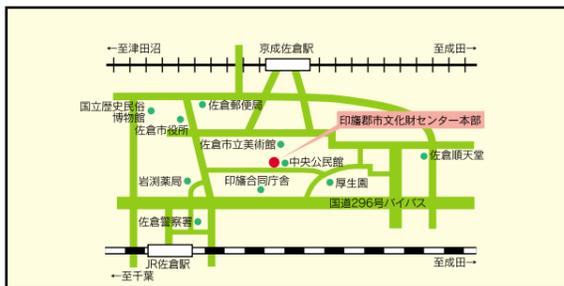
宮本宮後遺跡B地区(奈良・平安時代)

四街道市

成山地区遺跡群(縄文、奈良・平安時代ほか)

《おしらせ》

上記の発掘現場、室内作業は見学できます。ただし、かならず事前にご連絡下さい。ご期待に添えない場合もあります。詳細は本部へお問い合わせを。本誌は年4回発行の計画で、第3号は1月発行予定です。今号のご意見などをお聞かせ下さい。



発行・編集 財団法人 印旛郡市文化財センター 〒285 0025 千葉県佐倉市鍋木町198-3 ☎043(484)1133 平成11年10月15日



財団法人 印旛郡市文化財センター



うちだ は やま こし
佐倉市内田端山越遺跡



かまどの中から重なった状態で出土した坏

刻書土器(口径約13cm)



住居の床面から出土した香炉

香炉(口径約14cm)

内田端山越遺跡は佐倉市の南端に位置し、鹿島川を西に望む台地にあります。この遺跡は古くは縄文時代、新しくは中・近世といろいろな時代の人の営みを残しています。その中でも奈良・平安時代の竪穴住居跡、掘立柱建造物や土坑が多く検出されています。その他にも8世紀の終わりから9世紀の初めにかけて使われていた須恵器の窯跡が在ることもわかっています。今回はその内田端山越遺跡から最近出土した注目の土器を紹介します。

上段の写真は奈良・平安時代の45号住居跡のカマド内で、坏が5枚伏せて重なっていた状態とその一番下から出た坏の底を写したものです。底の右下あたりに刻印らしい痕跡があります。どことなく「寺」という字に似ている感じがします。

下段の写真も奈良・平安時代の43号住居跡から出土した香炉の出土状態とその写真です。香炉は仏事の際香を焚くための器で、蓋と身で一式ですが、今のところ蓋は見つかっていません。この香炉の高台には3本の縦線が刻まれています。

45号住居跡の坏の刻印は慎重に検討しなければなりません。内田端山越遺跡にはまだまだ古代のお寺を感じさせる遺物や遺構がありそうです。

佐倉市八木山ノ田遺跡

古代・道沿いでのお祓い



仏面墨書土器（高さ約16cm）



竪穴遺構遺物出土状況



仏面墨書土器側から



出土遺物集合写真（出土状況復元）



仏面墨書土器周辺



遺物出土状況（横から）



佐倉市八木山ノ田遺跡は、JR佐倉駅より南東に約2km離れた高崎川沿いの台地上にあります。調査は平成8年度におこなわれ、奈良時代（約1,200年前）の竪穴遺構（一辺約2.3m）から仏様の顔を意識して描かれた墨書土器が出土しました。顔が描かれる土器には人面墨書土器がありますが、その顔つきはひげをはやし目をつり上げた男性で「疫病神」または「閻魔様」をもとにしたものだと考えられています。他の出土例と比較すると八木山ノ田遺跡の墨書土器は手慣れた筆使いですが、仏画を専門として描いていた人と比べると劣る面があります。まず、白毫（額の点）が無いことや筆運びが不慣れなため顔を左右対象に描きできていません。たぶん、この顔を描いた人は在地の僧侶で仏画をまねたのではないのでしょうか。

では、どうして土師器の甕に仏様を意識した顔が描かれたのでしょうか。八木山ノ田遺跡が位置する台地は、平坦面が少なく集落跡と言うより先古墳時代から続く墓域だと考えられます。また、当時の地名で本遺跡は印旛郡長熊郷と余戸郷の境界に近い場所で、古代の官道とされる国道51号線沿いにあります。仏様の顔を意識して描かれた墨書土器は、官道を通ってやってくると考えられていた「疫病神」や、道行きの安全を願って生活の場と離れた境界でのお祓いに使われた土器かもしれません。（仏面墨書土器は平成11年11月7日まで、県立房総風土記の丘で開催されている『いにしえびと祈りの顔』において展示されています。）